

国内クレジット認証委員会御中

実績確認概要書

平成 25 年 4 月 26 日

審査機関名 一般社団法人日本能率協会

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	耐火物製造の焼成用工業炉の高効率化および C 重油・灯油から天然ガスへの燃料転換による省エネ事業
承認番号	JCDM-PJ0028
排出削減事業者名	明智セラミックス株式会社
排出削減共同実施事業者名	中部電力株式会社 (その他関連事業者名：株式会社シーエナジー)
事業実施場所	明智セラミックス株式会社 (岐阜県恵那市明智町 1614 番地)
事業の概要	C 重油及び灯油を燃料とする耐火物を製造するための焼成用工業炉を、天然ガスを燃料とする高効率工業炉に転換することで省エネならびに温室効果ガスの削減を図るものである。
排出削減量の計画	2008 年度：197 tCO ₂ /年 2009 年度：1802 tCO ₂ /年 2010 年度：1802 tCO ₂ /年 2011 年度：1802 tCO ₂ /年 2012 年度：1802 tCO ₂ /年 (事業実施期間合計 7405 tCO ₂)
国内クレジット認証期間	開始日 2009 年 1 月 12 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 003 工業炉の更新

2. 本実績確認の対象期間

2011年4月1日～2013年3月31日（第2回目実績報告）

ただし、トンネルキルンに係る削減量は、排出削減計画当時と設備の使用状況が変更になったため、2010年9月30日以降はクレジット申請対象外とした。

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	617 tCO ₂ (2011年4月1日～2013年3月31日)
-------	---

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果、生じていることを確認した。 1) 対象期間中の設備稼働確認 本実績報告期間において導入設備であるキルンが稼働していることを、実績報告期間中の天然ガス使用実績、及び、生産量の測定記録により確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 承認排出削減方法論、及び、承認排出削減事業計画に従い、天然ガス使用量および生産量等のモニタリングが実施されていることを確認した。 2) 活動量の正確性 担当者へのヒアリング及び事業者が作成した記録の確認等により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、天然ガスの使用量他の計測値の記録・保存が適切になされており、正確に集計されていることを確認している。 3) 単位発熱量、排出係数等の係数の確認 排出削減量の算定式、及び使用されている単位発熱量、排

	<p>出係数等が、排出削減方法論（別表）、及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認</p> <p>根拠資料との突合、方法論の定めた計算式との照合、計算過程、計算結果の確認により、排出削減量の算定方法及び算定結果は正確であることを確認した。</p>
算定期間が 2013 年 3 月 31 日を超えないこと	本実績確認の対象期間は、2011 年 4 月 1 日から 2013 年 3 月 31 日までであり、排出削減量を算定した期間が 2013 年 3 月 31 日を超えないことを確認している。

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価（該当する場合）

排出削減事業計画時、LNG 供給設備の温水式気化器に使用する温水ボイラの排出量は、事業実施後排出量として算定していたが、温水ボイラは、LNG 供給設備附帯の補機類に該当するためリーケージ排出量とし、適切に算定されていることを確認した。（第 1 回実績報告にて報告済み）

6. 特記事項

確認した排出削減量に相当する省エネルギー利用量について、原油換算 157KL であることを確認した。

以上